

# NEWS ニュースQ<sup>3</sup> 女性狙う連続「靴」強盗、犯人の動機は？

闇夜、路上で女性を押し倒し、靴を奪って逃げる。こんな靴強盗が、大阪府高槻市で相次いでいる。2011年7月以降、計10件。捜査は難航している。なぜ靴ばかり狙うのか。

## 後ろから突然 過去にも続発

4月15日午後11時半すぎ。仕事帰りの女性会社員(29)は、後ろから走り寄る足音で振り返ると、急にかがみ込んだ男に両足をつかまれ、転んだ。男は両足からヒール靴を奪い、無言で走り去った。左足に擦り傷。我に返り110番通報したのは、数分後だった。

この事件が10件目。これまでの9件も、人通りのない住宅街で午後10時～午前1時台に起きた。手口も同じ。被害者は10～40代。被害はヒール靴が8件、脱がすのが難しいブーツも2件。運動靴の被害はない。

「防犯カメラがない場所ばかり。犯行場所を選んでいるのか」(捜査関係者)。被害者の記憶もあいまいで、犯人の年代は「若い人」から「40～60代」、服装も「キャップ」「タオルで鉢巻き」と幅がある。しかも、1ヵ月～6ヵ月ごとに起きるため、捜査員の大量動員も難しいという。

似た事件は過去にもある。千葉県松戸市で00年に逮捕された大学生は「ハイヒールをはいた女性を見ると欲しくなってしまう」と女性から靴を奪う犯行を数件認めた。大分県宇佐市で03年、病院の靴箱から女性の靴を盗み逮捕された会社員は、自宅に左ばかり約400個の靴を持っていた。

## 履き古しの靴 マニアが売員

「女性の履いた靴」は、マニアの間で売買もされている。関西地方のあるブルセラショップには、高校の制服などが並ぶ一角に、パンプスやブーツ約20足があった。価格は約3千～5千円台。「20代OL」

「10代女子大生」と元の持ち主を紹介したものも。店でブーツを眺めていた30代男性に高槻の事件について尋ねると、「脱ぎたてがほしい気持ちはわから

ないでもないが、犯人は理性を失ったのだろう」と話した。

ネットで購入するマニアも多い。ある店のサイトでは50足余りを売っていた。パンプスとブーツは、2千円台が中心で、「女の子からもらったままでメンテナンスはしておりません」との断り書き付き。「使用感」を強調したのも目立つ。

ネット販売のあおりで、仕入れに苦勞するブルセラショップもある。ある東京都内の店は「ウェブ掲示板などでの宣伝や、風俗店や飲食店の女性従業員からの定期的なまとめ買い」でしのいでいるという。

## 「過激な欲望 危険な犯罪」

こうした「靴フェチ」、どういう嗜好なのか。

東京都内のブルセラショップ経営者に聞くと、「持ち主の女性を想像し、(その美しさと)履き古した靴の汚れとのギャップを楽しむ」のだという。靴強盗については「下着泥棒と根本は同じ。女性が恥ずかしかるものを追求する気持ちは共通。その対象が靴か下着かの違いだけ」と話す。

だけ、と言われてやいづれも犯罪だ。

犯人像について、桐生正幸・関西国際大教授(犯罪心理学)は、「異性との関わりが苦手、好みの女性の象徴、体の

一部として靴を嗜好する人の犯行だろう。高槻の事件は、女性の所有物を無理やり奪うこと自体に欲望がエスカレートしている可能性があり、危険だ」と指摘している。

